
ワリトイナカペー州からの便り

すー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワリトイナカペー州からの便り

【Nコード】

N2190BA

【作者名】

すー

【あらすじ】

アメリカの片隅にある51番目の州、ワリトイナカペー州にもデモの波が押し寄せていた。州知事であるマバオ氏は民衆の要望に添えるべく、決意した。州の改革がここから始まった……。

(前書き)

新しい年に「初笑い」をお届けしたいと思い、コメディータッチの社会風刺モノを書いてみました。
軽く読んでいただければ幸いです。

アメリカの51番目の州であるワリトイナカペー州は、カリフォルニア州の南に位置する群島である。

州都はマンナカガイチバンという名で、そこその人口を擁している。

今、ここの都庁にもデモの波が押し寄せていた。

「ウィーアー 99%！」

人々は、口々に現在の状況への不満を叫ぶ。

都知事のマバオ氏は彼らを前に、なだめることに精一杯だった。金持ち優遇が良くない。保険の支払い金額が高すぎる。e t c、e t c。

彼らにとっては切実な問題である。

昨年富豪のバフェット氏が自らを含めた金持ちを「優遇するな」と論じたあたり、アメリカにはまだまだ自浄作用があるとマバオ氏は自負している。

しかし、さし当たってどうするべきか。

「では、あなた方はどうすれば良くなると思いますか」

民衆の前でマバオ氏は尋ねた。緊張して声はかすれている。

「それを考えるのがあんたらの仕事だべー」

民衆が怒る。

「しかし、今まで国民のために行われていると思っていたことが、企業や一部の人のしか恩恵が得られていないことにあなたは憤慨しているのでしょうか。だとすれば、一緒に考えましょう。これから我々がどうしたら良いかを」

マバオ氏の力説に、人々は顔を見合わせた。

「安くてずっと住める家が欲しいべー」

「ずっと続けられる仕事が欲しいべー」

「子どもたちにまともな飯と教育を与えてやりたいべー」

彼らは人としてしごくまっとうな意見を述べた。

しかし今、世界中ガタガタの経済状況で、アメリカという国に頼れるだろうか。

州としても何とか奮起しなくては！

マバオ氏は決意した。

「分かりました。何とかします」

彼の言葉には凄みすらあった。

群島の強みとは何か。

周囲を海に囲まれていることである。洋上の風は強い。そして小さな魚たちや、それを求める大型魚、動物たちも集まってくる。ワリトイナカペー州は自然に満ちている。

マバオ氏はここに目をつけた。

環境政策の一環として、風力&波力発電装置を作った。この装置はそれに加え、小さな魚たちのエサとなる海藻を育てる場所も提供する。

島の農業も無人ヘリコプターで農薬を撒く大規模なものから、人がひとりひとり虫取りや草取りを丁寧にする有機農法に変えた。

有機農法は隣の州のカリフォルニアに学ぶところが大きかった。

漁業も変わった。従来の漁に加えて、風力&波力発電装置のメンテナンス方法を覚えた者が、船で装置まで出かけていき、日々の調整を行うようになった。

ワリトイナカペー州から都会へ出て行った若い人々が、自然とテクノロジーの調和した州にまた戻ってくるようになった。

住む家の提供の仕方もこの州はユニークだった。

元々隠れた、落ち着きのあるリゾート地として開発されていたこの州には、お金持ちの持つ余った家がたくさんあった。

これの人々に開放した者には、家の税金を軽くしたのである。

家を受け取った人には、できるだけ綺麗に家を使うように掃除と禁煙の義務が課せられた。

この掃除の義務も面白い。

リゾート地と僻地である州の悩みごとのひとつに、マナーの悪い客が残していくゴミがある。

ゴミをひとつ拾って、適正な場所に捨てて申請すると、今日のポイントとして州のポイントカードに加算される。

1ポイント溜めて州のあちこちにある教会や、民衆の寄り合い所に持っていくとパン一枚、ミルク一杯が支給されるのだ。

たくさんゴミ拾いとゴミ捨てをすればそれだけポイントが溜まる。5ポイント溜めるとサラダが付き、15ポイント溜めるとステーキが付いてくる。

10ポイント目は、52州・・・もとい、ニッポンの食や、中華食、イタリア食など世界の食事が楽しめ、結構な人気を博している。

州の道路や公園や砂浜はとても綺麗になった。

州のポイントカードはゴミ拾いのほかに、いろいろな場面で使える。

小さな観光地である、マンナカガイチバン公園で歌や踊り、絵文字やアートなどを披露しても良い。

群島のそこかしこに住む老人たちの家を訪れてパフォーマンスする者もいる。

それが縁で、彼らの食事を作ったり、日常でのちょっとした困りごとの手伝いをしてポイントが入る。

州は様々なスポーツやテクノロジーやパフォーマンスに賞を設けている。優秀な人々は、教会や寄り合い所では人々を無料で教えるようにもなった。

経済が世界で崩壊しようとも、ワリトイナカペー州にはできるだけ影響を少なくするために考えた案だった。

これらすべてが完了するまでに相当の時間と借金を重ねたようだが、アメリカの片隅で、ワリトイナカペー州は静かに再生しようとしていた。

(後書き)

コートピア？ 無いなら作ってしまえ〜な勢いでいきましよう
本年もどうぞよろしくお願いします。

感想、ご指摘、アドバイス、ご挨拶などありましたらお寄せくださ
い。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2190ba/>

ワリトイナカペー州からの便り

2012年1月5日16時50分発行